■古橋暉皃(児)　　篤農家，志士。代々豪農で，幕末国事に関わり，維新政府の役人となって，地域農民利益確保に尽力。
ふるはしてるのり
浮世床・・・1813＝　　三河国設楽郡稲橋村で，豪農古橋家5代目義教の次男に生まれる。幼名は唯四郎。

古橋家は，飛騨の匠をルーツとし，美濃国中津川に移って開拓に尽力の後，当地で酒造業を始め，質業も営んで豪農となっていたが，

水野忠成老中1818＝ 5歳：

・・・・・・1820＝ 7歳：4代義陳が村方騒動で失脚，

膝栗毛終・・1822＝ 9歳：
家内不和もあって，家政に打撃をうけ，

父義教が一時美濃国中津川に避難する間，

日本外史・・1827＝14歳：4代義陳が死去，
ｼｰﾎﾞﾙﾄ事件・1828＝15歳：続いて兄(長男)も死去して，苦境に陥った父は，稲橋村組頭で代官所にも力を発揮していた別家美濃屋源次郎に依頼し，借金返済と経営再建の仕法を提案して貰い，大黒講を開いて一息つくも，体面にこだわって大胆な手を打てず，効果が現れないどころか，破滅的状態に陥り，ついに引退を決意，
富嶽三十六景1831＝18歳：一切を任されると，源次郎の仕法に基づき，_破産寸前の家政の改革に着手，一気に家財道具・鉄店商品を売却，訴訟を起こして貸金を取立。，農業を本業とし味噌・醤油の製造をする経営に変える。
天保大飢饉始1833＝20歳：一家の借金は早くも150両まで減少。
高島砲術・・1834＝21歳：_〈天保飢饉〉が始まると，備蓄の集団として井山植林に着手するなどして，村人の信用も回復し始め，

・・・・・・1836＝23歳：_〈加茂一揆〉が起きると，村方小前を説得，急夫食・破免・安石代願に奔走，地元農民の利益につとめ，
大塩平八郎乱1837＝24歳：
適塾ｵｰﾌﾟﾝ・ 1838＝25歳：この間，大黒講の掛金支払いを完了して，家政の苦境も脱し，_正式に名主となった後，
蛮社の獄・・1839＝26歳：_終息させるるなど，目覚ましい働きをし，
勧進帳初演・1840＝27歳：
天保改革始・1841＝28歳：_隣の信州伊那郡六二村と係争中の中馬論争について，三河方11ケ村の総代として江戸に直訴し，

順天堂始・・1843＝30歳：_中馬稼ぎの権利も取得，

阿部正弘首座1845＝32歳：
_天保植林も成功させると，周辺各村の兼帯名主となって，地域の良風化も実現し，
・・・・・・1847＝34歳：*古橋家の借金皆済し，赤坂代官所から支配地最寄村取締命じられ，村落生活に広く関われるようになる。
・・・・・・1848＝35歳：父が死去。古橋家の酒・味噌の醸造高300石をこえる。
北斎没・・・1849＝36歳：
国定忠治磔・1850＝37歳：長男英四郎が誕生。家の味噌蔵の増築・土蔵修繕にまでこぎつける。
尊徳報徳論・1851＝38歳：代官所から，設楽郡桑平新田という疲弊しきっていた村の再建仕法を依頼され，再建に成功。

ペリー来航・1853＝40歳：_{家規}をつくり，村人の生活の永続のため，小作料の無利息貸与など，救恤済支出を行う。
開国開港・・1854＝41歳：国恩冥加金として金30両を上納。武節郷の村からの頼母子講の申し入れを，危険と判断し，断る。
安政大地震・1855＝42歳：安政の大地震が起きると，赤坂代官所へ金50両無利息五年賦で貸付。
松下村塾・・1856＝43歳：_徳川斉昭の「告志篇」「明君一斑抄」を読んで，国事専念を志し，

五ヶ国条約・1858＝45歳：
安政の大獄・1859＝46歳：_国学書としては，本居宣長の「直毘霊」を読んだのが最初で，
桜田門外変・1860＝47歳：代官所から，加茂郡閑羅瀬村村方仕法を命ぜられる。
遣欧使節・・1861＝48歳：_「玉鉾百首」に感激して，尊王攘夷を主張，志士的活動を支援し，
生麦事件・・1862＝49歳：安石代願に駿府へ出訴。_農兵づくりを始めるとともに，祖先崇拝の念も高まって，
8月18日政変 1863＝50歳：_先祖祭を催した後，助郷免除願のため江戸出訴し奔走，成果を挙げるなか，平田篤胤に没後入門，
禁門の変・・1864＝51歳：郷土防衛農兵計画。長州征伐のために献金100両。_畝傍山の神武天皇陵を参拝し，
薩摩藩士密航1865＝52歳：苗字御免となる。_遙拝所を設立して，祭典を始める。

大政奉還・・1867＝54歳：稲橋村お札降り。_赤坂代官所が新政府の支配下に置かれると，東海道新井宿で協力を誓い，建白。
明治維新・・1868＝55歳：*新政府に出仕すべく，長男英四郎を名主見習にして，赤坂に単身赴任，三河県の下吏として働く間，上司から倹約貯蓄よりも物産振興をはかるべきと説かれて開眼，富国攘夷を説くようになる。
戊辰戦争終・1869＝56歳：_伊那県権少属となる。紙会社をつくり，茶実を村人に配布。伊那県騒動が始まると，その鎮圧につとめ，
廃藩置県・・1871＝58歳：長男英四郎が重原藩第二七区副戸長となる。
学問のすすめ1872＝59歳：_伊那県出仕を罷めて帰村。桑・茶を植え物産振興。国学・農学を中心とする{明月清風校}を創設，
明治6年政変 1873＝60歳：
やがて_小学校教育の普及とともに，殖産興業政策に協力し，
初の民間工場1875＝62歳：学校費不足分150円寄附，学校費千円寄附
三つの内乱・1876＝63歳：
西南戦争・・1877＝64歳：〈西南戦争〉後，_山林開発にしか富村の道は無いと，自力更生運動と井山山林払下げ運動とを結合させ，
大久保暗殺・1878＝65歳：_適地適培を求めて農談会を開催，わが国最初のものとされる。
琉球処分・・1879＝66歳：茶価が上向いて，稲橋村の製茶も回復，横浜で開かれた共進会には古橋家から製茶を出品。*報徳社を導入，稲橋村に"経済之百年"の基礎を確立，品川弥二郎から"天下の三老農"と呼ばれるに至り，
明治14年政変1881＝68歳：第二回内国博覧会に出京・見学。
この間，煙草栽培が進み。村の輸出品のトップになる。
岩倉具視没・1883＝70歳：持病の疝痛が重篤化，_病中に「北設楽郡殖産意見書」「製茶意見書」を著す。

秩父事件・・1884＝71歳：富田高慶の「富国捷径」をもとに敬神愛国を前面に出した_「報国捷径」を著し，北設楽郡報徳会会長となる。
内閣発足・・1885＝72歳：「殖産意見書補遺」「富国能種まき」，伊勢神宮参拝日記「躬行実践」を著す。_藍綬褒章を受章し，

初の対等条約1888＝75歳：再び，大病。
帝国憲法発布1889＝76歳：

足尾鉱毒始・1891＝78歳：_「子孫訓誡補遺」を著し，
大本教・・・1892＝79歳：病をおして駕籠で井山に登り，_「経済之百年」を遺して，没した。

高木俊輔「明治維新と豪農」，三省堂「コンサイス日本人名事典」，吉川弘文館「日本近現代人名辞典」，